



## 関連・協力会社各位

### 贖いの日々

交通事故の  
当事者の  
痛恨の  
手記

### 自分本位な考えの結果

サービスマン 40代

私はずっと車を運転する時に「気をつけていれば交通事故は起こさない」と思っていました。その結果、私は取り返しのつかない交通犯罪を犯してしまいました。

以前から仕事が忙しく、仕事仲間と相談といっではよく飲みに出かけていました。そんな私にいつも妻は「飲んだら車で帰って来ないでね」と心配をしてくれていました。愚かな私は妻の心配を「大丈夫、自分は酒をコントロールできている」と思い込み、自分本位な考えで軽く受け止めていました。

そしてある日、朝から私は車で仕事に向かい、夜の10時過ぎまで働いた後、会社の仲間と飲みに出かけました。車で来たものにも関わらず…。夜11時過ぎまで飲んだ後、その人と別れても私は飲み足りないと思いつつも1軒の店へ行き、結局夜中の2時半

けませんでした。すぐに周りの人達が駆け寄ってきて、車の移動や救急車を呼んでくれました。私はその間、倒れている被害者様へ「大丈夫ですか、大丈夫ですか」と声を掛け続けていました。しばらくして救急車と警察が来て被害者様は病院へ搬送され、私は警察署へ連行され事情聴取が行われました。

事情聴取中に搬送先の病院で被害者様が今亡くなったこと、そして被害者様のご子息の足も痺いてしまったことを知り、目の前が真っ暗になり、取り返しつかないことをしてしまったことと、私の人生は終わったことに気がきました。

この数日後、家に帰ることが許され身支度をしている際、私の妻が被害者宅へ電話で謝罪をしてくれた事、そしてご遺族は警察を通じて今後一切の接触、謝罪は受け付けないし連絡もしてこないで欲しいとのことを聞きました。

その後、保険会社や弁護士を通じて何度か被害者様のご自宅へ謝罪に伺いたい旨をお願いしましたが、ご遺族は「冷静に対処

過ぎまで飲んでいました。さすがに仕事もあるので帰ろうと思つて店を出た時、タクシーや代行で帰ればよかったものを「気をつけて運転すれば大丈夫」という軽い気持ちで車を運転していました。前日の朝からずっと起きていた私は曲がりくねった道を、眠気を我慢しながら運転を続け、見通しの良い直線道路に出てしばらくして意識がなくなり眠りました。完全に眠ってしまったのです。

ドン、という大きな衝撃で目が覚め、目の前が真っ白で車の外から人の声が聞こえました。「何かに衝突してしまった」と気が付き、外に出て車の前方に出た時、信じられない光景が目に見え込んできました。私がおつかってしまったのは車で、その下には人が倒れていました。「大変なことをしてしまいました」と思い、身体が硬直して動

できるとは思えないし、顔も見たくない」と断られてしまいました。それも当然のことだと思えます。私が逆の立場だったら当然顔も見たくないでしょう。私は幸せに仲良く暮らしていた家族を社会のルールを守らず身勝手な行動で奪ってしまったのです。裁判の結果、危険運転致死傷罪で懲役4年という判決が下り、今は市原刑務所にて服役中です。私の自分本位な考えがどれほど他人を傷つけ、迷惑をかけてきたのかと今とても痛感しています。

私のこれからの人生は被害者様、ご遺族の喪失感、苦しみ、悲しみをより理解すると共に、二度と同じ過ちを犯さない為に反省の心を含め、行動に示していきます。この先、何年経っても償いに終わりがくることはありません。私の一生をかけて償い続けていきます。そして、私のような人間が1人でも減るよう、交通犯罪がなくなっほしいと思っています。

(第60集より掲載)